

岩手県ユニセフ協会 Information

岩手県ユニセフ協会設立15周年記念イベント

岩手県ユニセフ協会は、(公財)日本ユニセフ協会との協力協定のもと、広報活動、募金活動、政策提言(アドボカシー)活動などのユニセフ支援活動をすすめています。

2011年、岩手県ユニセフ協会10周年の年に東日本大震災に遭遇し、被災県として日本ユニセフ協会と連携し緊急・復興支援活動に取り組んできました。

2016年度は設立15周年。この5年間「3.11私たちはわすれない」をテーマに活動してきました。東日本大震災の経験と教訓を次の世代に引き継ぎ、世界の150以上の国と地域で教育、保健、水と衛生、栄養、保護等の支援活動を行っているユニセフ支援に感謝しつつ、これからもみなさまと一緒に、世界の子どもたちのすこやかな成長を願ってユニセフ支援の輪を広めていきます。



記念イベント Part 1

設立15周年記念式典と アグネス・チャン日本ユニセフ協会大使講演会

日 時… 2016年 **3月27日(日)** 13:00~16:00

会 場… 盛岡市民文化ホール 大ホール

協賛券… 協賛券 1,000円(高校生以下無料) 託児有

オープニング 大槌町子ども七福神踊り

○記念式典：来賓祝辞、感謝状贈呈、活動報告

○東日本大震災緊急復興支援報告：(公財)日本ユニセフ協会

オープニング(大槌キッズコーラス&キャラホール少年少女合唱団コーラス)

○アグネス・チャン日本ユニセフ協会大使講演会

「世界の子どもたちと東日本大震災」(公財)日本ユニセフ協会大使 アグネス・チャンさん



記念イベント Part 2

チャリティーコンサート

日 時… 2016年 **7月23日(土)** 13:00~16:00

会 場… 花巻市民文化会館大ホール

協賛券… 協賛券 500円(高校生以下無料) 託児有

出 演… 県立不来方高校音楽部、市民コーラスほか

「忘れない」こそが支援の原点、「東日本大震災を意識的に思い起こし風化させてはならない」と大槌町に球根植えボランティアに参加してその思いを強くしました。

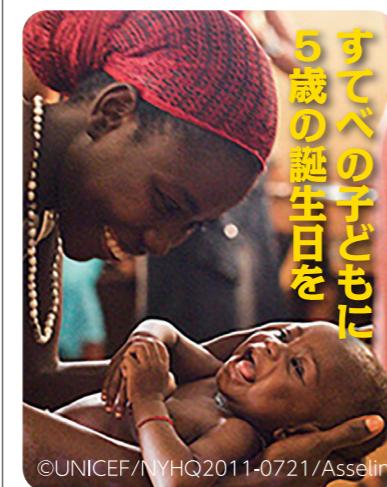
2012年11月11日、復興を祈願する「希望の灯り」が大槌町に点灯されました。モニュメントは町の中心部や「ひよっこりひょうたん島」のモデルとされる、蓬莱島を望む城山の高台に設置されています。

「阪神淡路大震災1・17希望の灯り」から分灯され、陸前高田市に2011年12月10日点灯されています。被災地を照らす「希望の灯り」にみんなで手を合わせました。



あとがき

第37回ユニセフ Hand in Hand ハンド・イン・ハンド募金 ボランティア募集



今年もぜひ多くの方々のご
参加をお待ちしております!

12月 5日(土) 11:00~12:30
花巻市 コープ花巻あうる ビフレ
アルテ・マルカン

12月12日(土) 12:00~15:00
盛岡市 カワトク前 イオンモール盛岡
ホットライン肴町 クロステラス盛岡
MOSSビル アネックスカワトク前

12月13日(日) 12:00~15:00
盛岡市 イオンモール盛岡

お問い合わせ 岩手県ユニセフ協会までご連絡ください。

岩手県ユニセフ協会ニュース No.38

unicef



Iwate Association for UNICEF

2015年11月

[発行]

岩手県ユニセフ協会

(旧 日本ユニセフ協会岩手県支部)

〒020-0690
岩手県滝沢市土沢220-3 いわて生協本部2F
TEL 019-687-4460 FAX 019-687-4491
e-mail : sn.iunicef_iwate@todock.jp
ホームページ http://www.unicef-iwate.jp/

東日本大震災復興支援

"We'll never forget 3.11"

8月31日、佐賀県小城市立芦刈観瀬校(あしかりかんらんこう)から届いたモザイクアート。原画は影絵作家として知られる「藤城清治」さんの作品から全校生徒で作成。「ずっと復興を願い続けていきます」と大船渡市立第一中学校へ贈られました。(佐賀県ユニセフ協会経由)



8月31日、大船渡市立第一中学校一年生17名が、グループ別自主研修で県ユニセフ協会を訪問。

「東日本大震災からこれまで、どのような方々の支えがあって今の私たちの生活があるのか」のテーマで、あらかじめ多くの質問が用意され、「震災後、緊急・復興支援で人々の様子はどうに変わったか。緊急物資はどのように準備したか。心理社会的ケアってなんでしょうか。募金はどのように使われましたか」などなど。

(公財)日本ユニセフ協会と県ユニセフ協会は、連携し緊急・復興支援に取り組んでおり、東日本大震災緊急支援本部加藤力ヨさんから、生徒のみなさんに分かりやすく説明がありました。また、2011年の中総体・高総体はユニセフの支援があったことに驚いていました。

後日、全員から「感謝の気持ちを忘れずにがんばっていきたい」とお礼状が届きました。



○当時小学2年生だった私たちは、ノート・鉛筆・消しゴムなど、たくさんの物をいただきました。この経験を通して、私は物を大切にし、復興に向けて自分たちができることを生活している中で考えていきたいと思います。

○世界には、こんな大変なところもある。それに比べて日本は、戦争もなければ、どう水を飲むなんてこともない。こんな日本に生まれてよかったです。」と思っていました。自分の住んでいる所が平和ならそれでいいなんて思ってたら、誰も救うことなんてできません。今回の研修で私はこの事に気づきました。本当にありがとうございました。

2015年度多くの子どもたちの笑顔が。。。



▲子ども映画上映会：11会場 623名参加

▲ボードゲーム会：7会場 200人 ボランティア延べ 54名



▲大槌キッズコーラスとキャラホール少年少女合唱団の交流・コンサート：7月18~19日 65名

▲大槌町大槌保育園・おさなご幼稚園・みどり幼稚園球根植え 10月22日 ボランティア参加 33名

いわてユニセフのつどい2015



「遊びを通した子どもの心のケア」「子どもにやさしい空間」

(公財)日本ユニセフ協会東日本大震災緊急支援本部心理社会的ケア・アドバイザー 本田涼子さんの講演では、災害後、できるだけ早く、できるだけ多くの様式を用いて、子どものつらい経験を処理できるように援助することが重要と話され、遊びを通した子どもの心のケアの大切さをお話されました。

「被災地のお話を聞く」「保育園の園児に寄り添って」

宮古市赤前保育園主任保育士佐々木未緒さんは、園での子どもたちの様子をお話しされました。震災後子どもたちを取り巻く変化に対応し、寄り添う姿に涙する人もいました。

参加者からは、「やはり専門家集団、団体の力はすごいと思いました」、「遊びを通して子どもの心を開かせることの大切さや心に寄りそってあげる接し方を学びました」など感想が寄せられました。

大槌町キッズコーラスあぐどまめ&キャラホール少年少女合唱団の合唱は、「子どもたちの澄んだ歌声に心が洗われる思い」、「可愛らしい子どもたちの歌声で笑顔になりました」、「大変な中でも歌をこんなふうに歌うなら…感動しました」

また、「ユニセフ協会の活動が少し理解できました」、「ユニセフのことはわかりませんでしたが、今日参加して少しではあります」と理解できました。微力ではありますが、かかわっていきたいなど意見も出されました。

最後に「ひっこりひょうたん島」「ドン・ガバチョの未来を信ずる歌」をみんなで元気に歌いました。

東日本大震災から4年半、日本ユニセフ協会と岩手県ユニセフ協会は連携し緊急・復興支援に取組んできました。

10月10日、第14回いわてユニセフのつどい2015をプラザおででで100名の参加で開催しました。「3.11私たちはわすれない・子どもたちにしあわせな未来を」大槌町キッズコーラスあぐどまめ&キャラホール少年少女合唱団の合唱、2011年から5年間、沿岸と内陸の交流を続けてきました。

つどいは、岩手県ユニセフ協会専務理事内澤祥子さんの挨拶の後、(公財)日本ユニセフ協会東日本大震災緊急支援本部 加藤力ヨさんによる東日本大震災緊急復興支援報告でした。海外のユニセフ現地事務所から駆けつけた日本人ユニセフ職員によって、緊急支援が始まり水や肌着類、乳児検診、教育支援、保育園や幼稚園のプレハブ園舎の提供された報告でした。

ユニセフ出前講座

宮古市津軽石・51人の子どもたち ～ユニセフを学（まな）んだよ！～

7月25日(土)、いわて生協宮古市津軽石スワンこ～ぶ(理事内館信子、スワンこ～ぶ君澤幸枝)の夏休み子ども企画として、ユニセフ講座が津軽石払川コミュニティセンターで開催されました。DVD「ユニセフと地球のともだち」をみて、51人が4つのグループ(先進国・アフリカ・アジア・中南米)に分かれ、食糧分配ゲームをしました。

子どもたちから「食べ物をなかなか分け合って食べることは、大切なことだと思った」、「昔の戦争はとても大変だとわかった」、「これからも命を大切にしたい」と、ゲームを通じて感じたようです。



▲食糧分配ゲームは、どのチームも真剣です。

「誰もが大切な“いのち”」 ～奥州市立広瀬小学校～

10月23日、広瀬小学校1~6年生57名は、世界には、「5歳まで生きられない子どもたち」がいることを学び、小さい命を守るために自分たちにはなにができるか考えました。

世界各国の5歳を迎える前に命を失う子どもの割合を調べたり、水がめを使って水くみ体验や、ハマダラ蚊に刺されマラリヤにかかるないように、ユニセフが支援している蚊帳に入ってみました。



▲1~6年生のグループで協力し合て世界地図に色塗り。
すばやく蚊帳の中に入りました。

東日本大震災復興支援

「子どもにやさしい空間」(CFS) 災害支援のスタンダードに 東北で初のCFS研修

4年前、東日本大震災の支援の現場で、多くの子ども支援団体が「子どもにやさしい空間」活動を展開。実際に現場での活動に関わられた専門家からは、いざという時に支援の現場で使える国内の実情に即した標準的な指針の整備を求める声とともに、「大きな災害が頻発する日本でこそ『子どもにやさしい空間』を災害支援のスタンダードに」という声が寄せられました。



▲8月19日、盛岡での研修会には、県内各地から、子ども支援に関わる方々33名が参加。
© 日本ユニセフ協会/2015

震災支援で得た知見を、“今”的課題の解決にも

こうした声に応え、日本ユニセフ協会は、独立行政法人 国立精神・神経医療研究センター(NCNP)と共同で、ユニセフが2009年に発行した『A Practical Guide for Developing Child Friendly Spaces(子どもにやさしい空間づくりの実践的ガイドブック)』をベースに、2年前、日本版『子どもにやさしい空間ガイドブック』を発行。今年7月の埼玉県さいたま市を皮切りに、子ども支援に関わる方々を対象にした研修会をスタートさせました。



東北初の研修会

8月19日(水)、東北初の研修会会場の盛岡地区合同庁舎8階の講堂には、盛岡市内ののみならず陸前高田市や釜石市などの被災地域から、33名の方々が参集。日ごろ子ども支援や子育て支援に関わっているNPOや市民団体や岩手県ユニセフ協会の方々のみならず、県や児童相談所などの行政関係者や大学関係者も参加されるなど、「子どもの視点」からの防災の取り組みに対する関心の高さが伺えました。



▲参加者は、グループワークで、「子どもにやさしい空間」の企画・運営をシミュレーション。
© 日本ユニセフ協会/2015



「宮城県では阪神淡路大震災を経験した人がいて、一週間後には子どもたちの居場所づくりがすすめられたそうですね。多くの人たちが知っていることは大切ですね。」
岩手県ユニセフ協会 常務理事反町久美さん

岩手県ユニセフ協会では、 ネパール大地震緊急募金 を受け付けています

農業まつり&米の日 イベントでボランティアスタッフの松原香寿さんのご協力でネパールの料理「ベジタリア・プラウ(焼き込みご飯)&カレーソース」を試食提供し、緊急募金を呼びかけました。



▲被災したソルクンプ郡で暮らす5歳の子ども。
© UNICEF/NPAP 2015-00057/Mathema

▲最も甚大な被害を受けた14の郡のうちのひとつ、Kavrepalanchokでボリオの予防接種を受ける子ども。

© UNICEF/NPAP 2015-0038/Karki

2015年度ユニセフ募金

1,574万1,501円 2015年1月1日~9月30日

- ネパール大地震緊急震募金 605万8,010円
- エボラ出血熱緊急募金 4万2,000円
- 生協東ティモール指定募金 130万円
- 一般募金 834万1,491円